

## I. 景況調査

### 1. 景況調査について

#### ○本調査書作成の目的

朝来市内事業者が主要商圈とする朝来市地域、但馬地域、及び兵庫県内の経済動向を調査し、市内の業種別産業構造を把握することで、効果的な将来予測、及び経営計画の策定等に繋げる目的とします。

#### ○本調査書の作成方法

朝来市商工会の会員事業所に対して「調査票」の記入を依頼、回収したデータを基に、他の調査や情報とも比較して調査書を作成します。

#### ○『D.I.』について

D. I. とは、景気の各項目事項について、「良い」と感じている企業の割合から、「悪い」と感じている企業の割合を引いた値を示します。右の表の場合、  
「良い」20% - 「悪い」30% = ▲10%  
となり、D. I. 値は▲10 ポイントと示すことができます。

業況	件数	構成比
良い	10 件	20%
不変	25 件	50%
悪い	15 件	30%
合計	50 件	100%

#### ○参考とする調査書と有効回答数について

本調査書の作成にあたり、株式会社みなと銀行が四半期毎に実施する「兵庫県内中小企業の景況調査」、および但馬信用金庫が四半期毎に実施する「但馬管内の景気動向調査」の調査結果を参照しています。

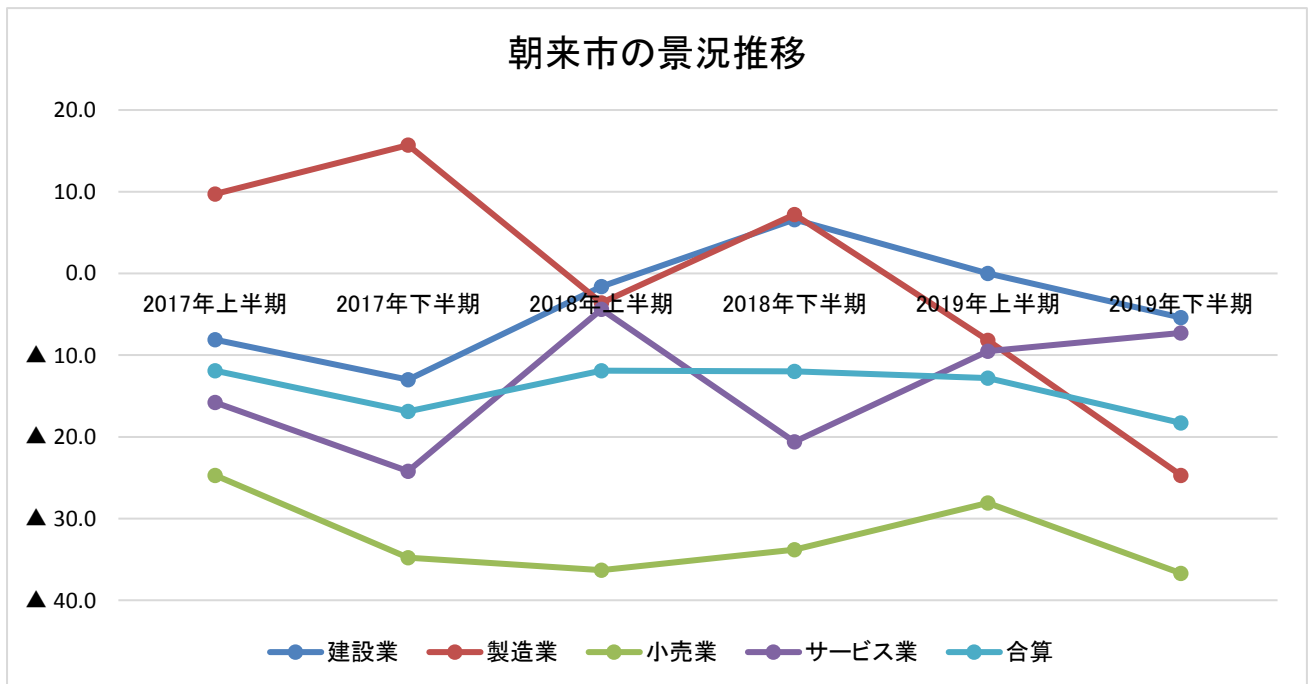
#### (対象期間における有効回答数)

	建設業	製造業	小売業	サービス業
兵庫県内中小企業の景況調査 (株みなと銀行)	204 件	381 件	76 件	106 件
但馬管内の景気動向調査 (但馬信用金庫)	91 件	83 件	63 件	146 件
朝来市景況調査書 (朝来市商工会)	58 件	79 件	81 件	110 件

#### ○業種の分類について

本調査書では、朝来市内事業所における卸売業は「小売業」とあわせて、飲食・宿泊業等は「サービス業」とあわせて集計していますので、ご注意ください。

## 2. 朝来市の景況推移（直近6回の調査）



	2017年 上半期	2017年 下半期	2018年 上半期	2018年 下半期	2019年 上半期	2019年 下半期
建設業	▲8.1 (62件)	▲13.0 (54件)	▲1.6 (64件)	6.6 (61件)	0.0 (51件)	▲5.2 (58件)
製造業	9.7 (62件)	15.7 (51件)	▲3.6 (55件)	7.2 (69件)	▲8.2 (61件)	▲25.6 (79件)
小売業	▲24.7 (93件)	▲34.8 (66件)	▲36.3 (80件)	▲33.8 (71件)	▲28.1 (89件)	▲37.0 (81件)
サービス業	▲15.8 (101件)	▲24.2 (95件)	▲4.4 (113件)	▲20.6 (107件)	▲9.5 (126件)	▲7.3 (110件)
合算	▲11.9 (318件)	▲16.9 (266件)	▲11.9 (312件)	▲12.0 (308件)	▲12.8 (327件)	▲12.8 (328件)

直近6回の調査における「業況（自業種の景気動向）」の集計結果の推移を示しています。表の上段の数値はD. I. 値、下段の数値はその時の集計件数を示しています。

サービス業に若干の改善が見られますが、その他の業種は軒並み悪化となりました。また他の業種と比較して、小売業は一貫して悪い状況にあります。また景況判断値の合算は、三期連続の減少により、6回の調査の中で最も悪い数値となりました。

### 3. 業種ごとの集計

#### ①建設業（有効調査書数：58件）

○昨年(7～9月)と比較して、今期の業況はいかがですか？

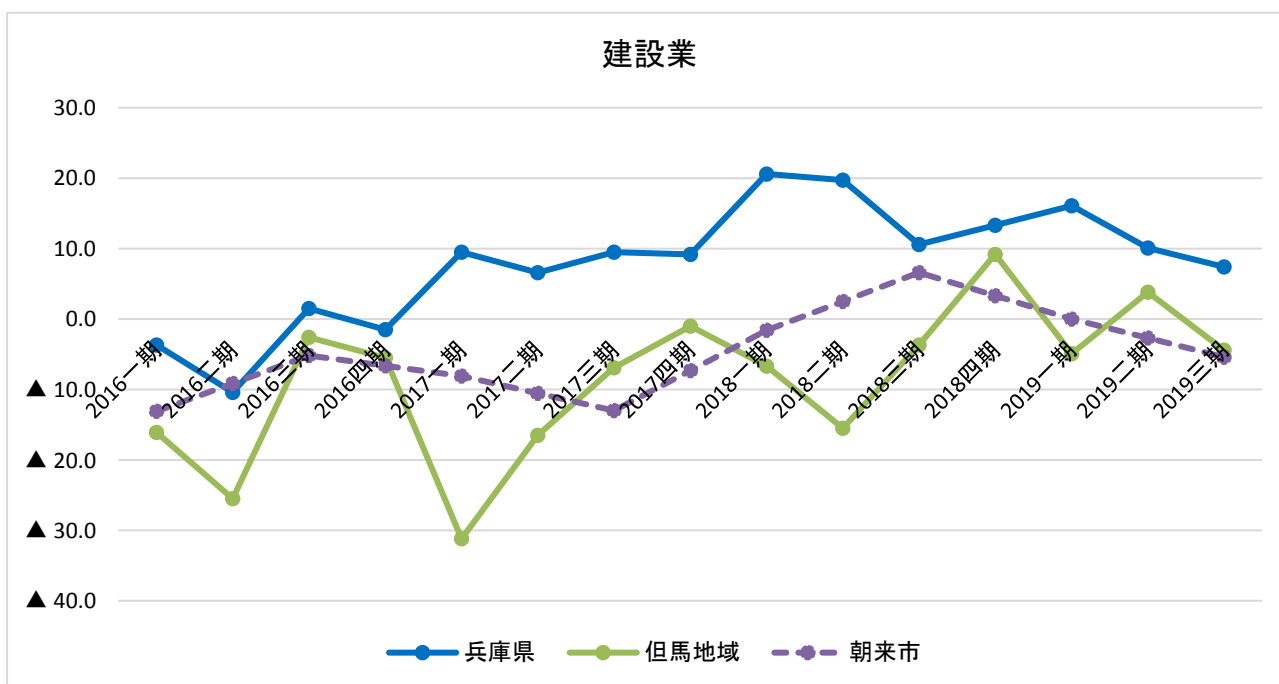
	件数	構成比
好転	9件	15.5%
不変	37件	63.8%
悪化	12件	20.7%

割合としては、「不変」とお答えいただいた事業者が最も多い状況です。「好転」の数を「悪化」が上回ったことで、景況判断値は2018年1期ぶりにマイナス値となりました。

地域	D. I.
兵庫県 (みなと銀行)	7.4ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲4.4ポイント
朝来市	▲5.2ポイント

建設業のD. I.を地域別に比較すると、前回調査と同様に、兵庫県の数値が最も良い数値であるとともに、兵庫県のみがプラス値となりました。

#### ○建設業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

建設業における地域ごとの景況推移を中期的に見てみると、緩やかな回復基調が落ち着いて若干悪化の傾向にある様子が見受けられます。2019年3期には全地域で若干の悪化となりました。

○経営上の問題点（建設業－朝来市）

	2018 年上半期	2018 下半期	2019 年上半期	2019 年下半期
1 位	熟練技術者の確保難	従業員の確保難	従業員の確保難	熟練技術者の確保難
2 位	従業員の確保難	熟練技術者の確保難	熟練技術者の確保難	従業員の確保難
3 位	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇

経営上の問題点について、直近 4 回の調査結果を並べています。1 位、2 位と順位に変動はあるものの毎回ほぼ同数の回答があがっており、雇用の問題で多くの事業所で対応が迫られています。また依然として、「材料等仕入単価の上昇」が問題点としてあげられました。

○経営状況や今後の方針について（建設業－朝来市）

創業 5 年未満	1 件
売上・事業拡大	23 件
現状維持	25 件
事業承継への取り組み	4 件
廃業を検討	7 件

※複数回答あり

・廃業を検討（7 件）の内、

可能であれば、事業譲渡や引き渡しを検討したい	5 件
事業譲渡なども、全く考えていない	2 件

## ②製造業（有効調査書数：79件）

○昨年（7～9月）と比較して、今期の業況はいかがですか？

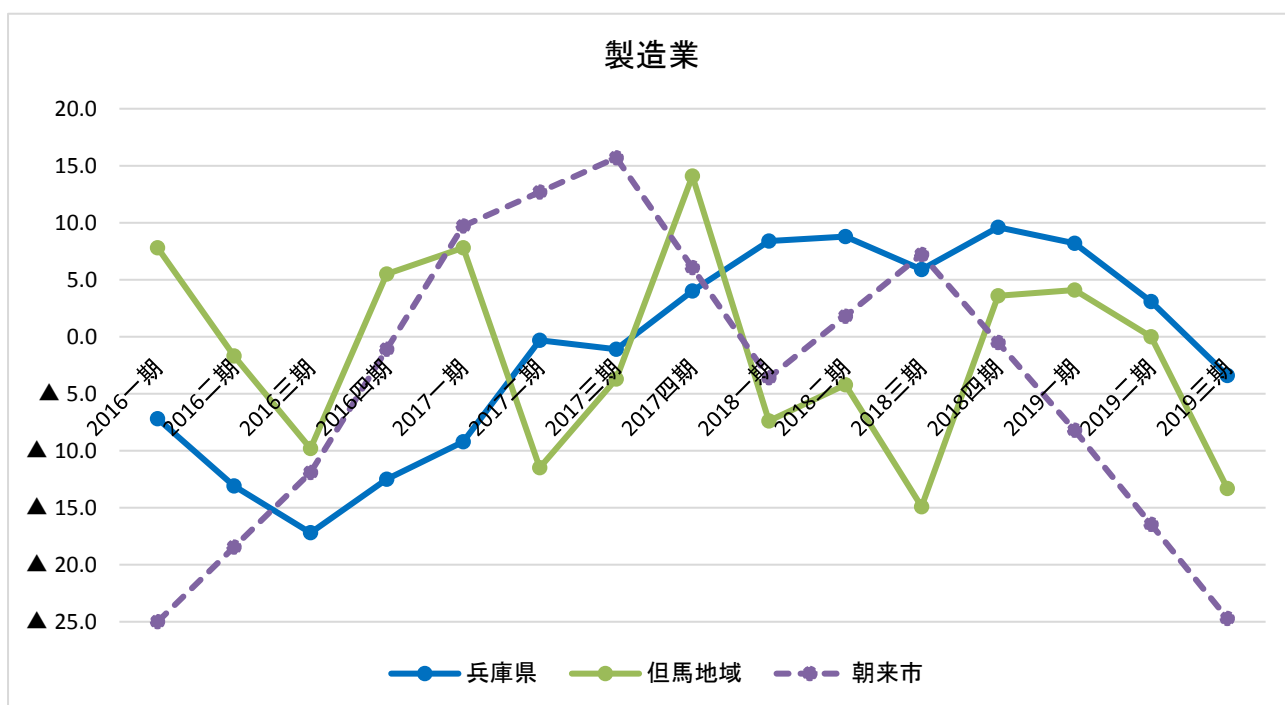
	件数	構成比
好転	12件	15.2%
不変	35件	44.3%
悪化	32件	40.5%

割合としては、「不変」とお答えいただいた事業者が最も多い状況です。「悪化」が「好転」を上回り、景況感の悪化に歯止めが効かない状況が続いています。

地域	D. I.
兵庫県 (みなと銀行)	▲ 3.4ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲13.3ポイント
朝来市	▲25.3ポイント

全ての地域でD. I. はマイナスとなりました。直近二期について、兵庫県、但馬地域では、安定した推移となりました。

○製造業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

2018年三期、四期をピークに、全地域で急速に悪化が進むとともに、全地域でマイナス域の数値が計上されました。特に但馬地域、朝来市での悪化が進んでおり、共に過去2番目に低い数値が計上されています。

○経営上の問題点（製造業－朝来市）

	2018 年上半期	2018 下半期	2019 年上半期	2019 年下半期
1 位	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇	材料等仕入単価の上昇
2 位	人件費以外の経費の増加	従業員の確保難	従業員の確保難	従業員の確保難
3 位	従業員の確保難	店舗施設の老朽化	人件費の増加	需要の停滞

4 期連続で「材料等仕入単価の上昇」が最も大きな問題としてあがっています。次点として、製造業の景況感に陰りが出てきているものの「従業員の確保難」についても 4 期連続であがってきており、根強い問題となっています。3 位には、唯一「需要の停滞」が問題としてあがりました。

○経営状況や今後の方針について（製造業－朝来市）

創業 5 年未満	5 件
売上・事業拡大	36 件
現状維持	31 件
事業承継への取り組み	12 件
廃業を検討	7 件

※複数回答あり

・廃業を検討（7 件）の内、

可能であれば、事業譲渡や引き渡しを検討したい	5 件
事業譲渡なども、全く考えていない	2 件

③小売業（有効調査書数：81件）

○昨年（7～9月）と比較して、今期の業況はいかがですか？

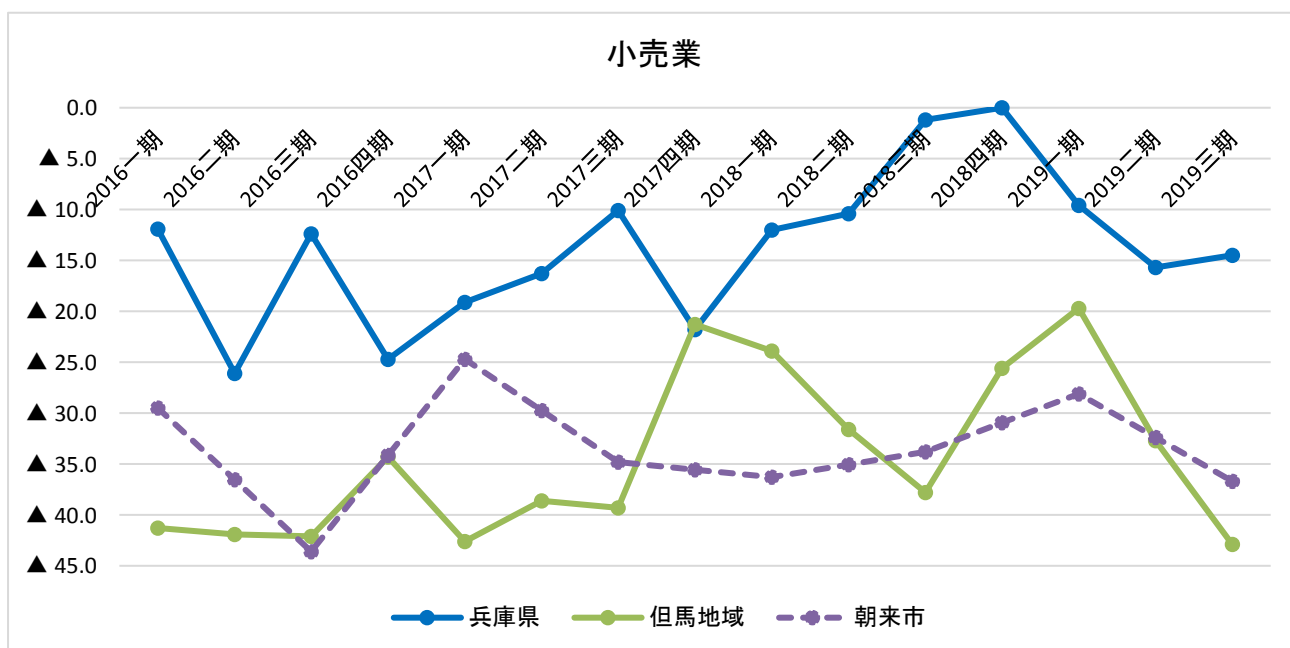
	件数	構成比
好転	6件	12.4%
不変	39件	47.2%
悪化	36件	40.4%

「悪化」の回答割合が多く、他業種と比較しても最も高い割合となりました。過去の調査と比較すると、平均的な景況判断値となっています。

地域	D. I.
兵庫県 (みなと銀行)	▲14.5ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲42.9ポイント
朝来市	▲37.0ポイント

前回調査から引き続き、全ての地域において最も悪いD. I. 値を示しているのが小売業となっており、芳しくない状況が続いています。

○小売業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

小売業の景況推移としては、他の業種と比較して一貫して低い水準で推移を続けています。また、小売業は他の業種よりも地域間での景況感の格差が激しく、マイナス域が続いているものの、兵庫県では比較的高い水準で推移しています。

○経営上の問題点（小売業－朝来市）

	2018 年上半期	2018 下半期	2019 年上半期	2019 年下半期
1 位	利用者ニーズの 変化への対応	利用者ニーズの 変化への対応	利用者ニーズの 変化への対応	利用者ニーズの 変化への対応
2 位	需要の停滞	需要の停滞	需要の停滞	需要の停滞
3 位	従業員の確保難	店舗施設の 老朽化	従業員の確保難	従業員の確保難

上位 2 項目については、過去の調査と同様に継続的な問題点としてあげられています。また「従業員の確保難」についても、景況感の低調はあるものの根強い課題としてあげられています。

○経営状況や今後の方針について（小売業－朝来市）

創業 5 年未満	6 件
売上・事業拡大	32 件
現状維持	37 件
事業承継への取り組み	5 件
廃業を検討	9 件

※複数回答あり

・廃業を検討（9 件）の内、

可能であれば、事業譲渡や引き渡しを検討したい	7 件
事業譲渡なども、全く考えていない	2 件



④サービス業（有効調査書数：110件）

○昨年(7～9月)と比較して、今期の業況はいかがですか？

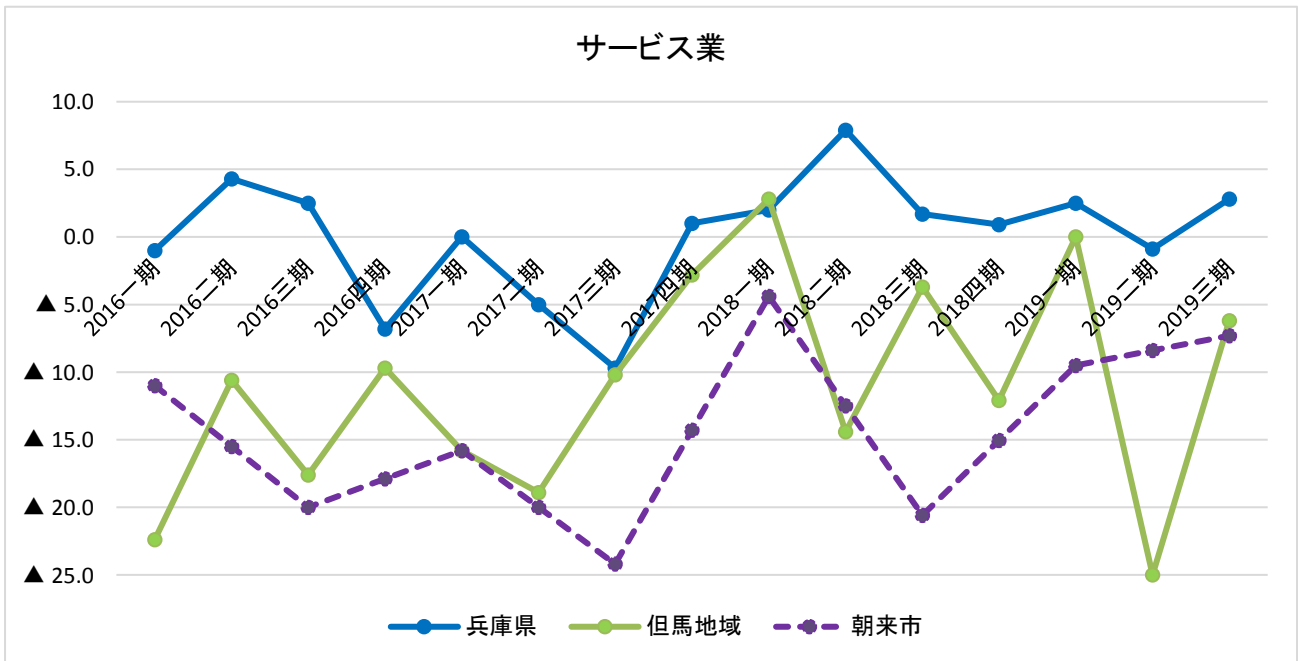
	件数	構成比
好転	26件	23.6%
不変	50件	45.5%
悪化	34件	30.9%

割合としては、「不変」とお答えいただいた事業者が最も多かったものの、「悪化」とお答えいただいた事業者が「好転」より多く、景況判断値は『▲7.3ポイント』となりました。

地域	D. I.
兵庫県 (みなと銀行)	2.5ポイント
但馬地域 (但馬信用金庫)	▲6.2ポイント
朝来市	▲7.3ポイント

大きな改善は見られなかったものの、3地域ともに前回調査時よりも高い数値となりました。但馬地域、朝来市では、ともに調査開始以降、2番目に高い数値となりました。

○サービス業における地域ごとの景況推移



※朝来市は二期（4～6月）、四期（10～12月）の調査未実施のため、中間点を計上

サービス業では全体、及び個別の地域を見ても景況の推移が激しいため推移が読み取りづらくなっています。そのような中ではありますが、2019年三期には全ての地域で景況判断値が回復、また過去の調査期間の平均値よりも高い数値が計上されました。

○経営上の問題点（サービス業－朝来市）

	2018 年上半期	2018 下半期	2019 年上半期	2019 年下半期
1 位	従業員の確保難	利用者ニーズの 変化への対応	利用者ニーズの 変化への対応	利用者ニーズの 変化への対応
2 位	利用者ニーズの 変化への対応	材料等仕入単価 の上昇	材料等仕入単価 の上昇	店舗施設の老朽化
3 位	需要の停滞	店舗施設の老朽化	店舗施設の老朽化	需要の停滞

サービス業では、「利用者ニーズの変化への対応」が引き続き根強い問題点とされています。なお、前期・前々期と2位にあがっていた「材料等仕入単価の上昇」については、今回の調査では4位に計上されています。

○経営状況や今後の方針について（サービス業－朝来市）

創業5年未満	16件
売上・事業拡大	45件
現状維持	48件
事業承継への取り組み	14件
廃業を検討	5件

※複数回答あり

・廃業を検討（5件）の内、

可能であれば、事業譲渡や引き渡しを検討したい	3件
事業譲渡なども、全く考えていない	2件

## (参考) 全データの集計

○経営者、事業主の年齢を教えてください

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
20代	1	0	0	1	2
30代	2	5	6	8	21
40代	13	16	13	23	65
50代	18	20	14	26	78
60代	17	20	24	28	89
70代以上	7	18	24	24	73

○事業承継、後継者について教えてください

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
まだ考えていない、しばらく必要ない	18	30	31	57	136
後継者は既に決まっている	14	15	13	19	61
後継者はいるが、まだ決まっていない	8	16	13	12	49
候補者が見当たらない	10	8	0	10	28
後継者は必要ない	8	10	17	11	46

○経営状況や今後の方針について教えてください

(複数回答可能)

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
創業5年未満	1	5	6	16	28
売上・事業拡大	23	36	32	45	136
現状維持	25	31	37	48	141
事業承継への取り組み	4	12	5	14	35
廃業検討	7	7	9	5	28

※廃業を検討される方

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
事業譲渡や引き渡しを検討	5	5	7	3	20
事業譲渡なども、全く考えていない	2	2	2	2	8

○雇用者数について教えてください

【正社員(正規雇用)】	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
0人	9	18	30	40	97
1人～5人	26	29	32	47	134
6人～10人	7	8	14	11	40
11人～20人	9	5	3	8	25
21人以上	6	18	2	4	30
	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
雇い入れを増やしたい	30	27	12	20	89
適正人数である	15	31	38	49	133
雇い入れが過剰である	2	2	1	0	5
雇用していない・しない	10	18	30	41	99

【パートタイマー(アルバイト)】	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
0人	26	23	38	51	138
1人～5人	28	37	30	41	136
6人～10人	1	4	7	9	21
11人～20人	2	7	3	5	17
21人以上	0	7	3	4	14
	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
雇い入れを増やしたい	10	26	13	44	93
適正人数である	26	0	29	110	165
雇い入れが過剰である	0	21	2	0	23
雇用していない・しない	21	57	37	0	115

○平成 31 年 1～3 月と前年同期(平成 30 年 1～3 月)を比較した状況について教えてください

		建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
業況	好転	9	12	6	26	53
	同じ	37	35	39	50	161
	悪化	12	32	36	34	114
売上	増加	11	4	19	0	34
	同じ	31	16	25	13	85
	減少	16	1	5	10	32
販売価格	増加	6	7	1	1	15
	同じ	44	13	37	1	95
	減少	8	1	11	1	21
仕入価格	増加	18	2	3	0	23
	同じ	33	14	1	1	49
	減少	7	5	4	2	18
資金繰り	好転	5	1	0	1	7
	同じ	47	2	2	1	52
	悪化	6	5	3	1	15

○今期の経営上の問題点を教えてください(上位 3 つまで)

	建設業	製造業	小売業	サービス業	合計
大企業の進出による競争の激化	0	5	15	6	26
新規参入業者の増加	3	5	8	10	26
利用者ニーズの変化への対応	10	11	41	41	103
店舗施設の老朽化	4	13	20	30	67
人件費の増加	9	26	14	20	69
人件費以外の経費の増加	16	23	17	16	72
利用料金の低下・上昇難	1	2	5	23	31
材料等仕入単価の上昇	20	35	16	27	98
金利負担の増加	3	0	1	2	6
事業資金の借入難	5	1	7	7	20
従業員の確保難	28	29	20	23	100
熟練技術者の確保難	30	15	2	16	63
需要の停滞	7	28	30	28	93
その他	6	8	8	14	36